

ローマ人への手紙第六七回質問

4 ですから、私の兄弟たちよ。あなたがたもキリストのからだを通して、律法に対して死んでいるのです。それは、あなたがたがほかの方、すなわち死者の中からよみがえった方のものとなり、こうして私たちが神のために実を結ぶようになるためです。

5 私たちが肉にあったときは、律法によって目覚めた罪の欲情が私たちのからだの中に働いて、死のために実を結びました。

6 しかし今は、私たちは自分を縛っていた律法に死んだので、律法から解かれました。その結果、古い文字にはよらず、新しい御霊によって仕えているのです。

(ロマ七章四―六節／新改訳2017)

(問一) 四節で言っている死によって、私たちはどのようなようにして罪の力から救い出されますか。(6章6―7節、7章5―6節参照)

〔注〕「肉にあったとき」とは、神から離れていて、神の助けを受けずに、生まれつきのままの人間の性質に従って生きていることを意味します。肉とは、神とキリストにかかわりを持たない人の状態のことです。



十字架と復活の救い

(ロマ七章四節)

キリスト教はキリストを抜きにしてはありませぬ。ただ単にこの世界の造り主であられ、この世界を支配し、導いておられる生きた人格神を信じたとしても、それはキリスト教の重要な神観の基礎ではありえても、決して十分なものと言うことはできません。キリスト教において、わたしたちが信じる神は、キリストによってご自分を現わしてくださった神なのです。

わたしたちが信じているキリストの福音は、ただ単にキリストが宣べ伝えていた福音というのではなく、キリストをその内容とする福音です。つまり、キリスト教とはキリストそのものを中心とした宗教であって、それ以外の何ものでもありません。

したがって、クリスチャン生活もキリストを中心としたものであるべきで、この点は極めて重要な点であると言わなければなりません。クリスチャン生活は、わたしたち自身が考えている思想とか、わたしたち自身がした何かの上に成り立っているものではありません。わたしたちの何かではなく、キリストがわたしたちのためにしてくださった御業の上に成り立っているものです。

それでは、キリストがわたしたちのためにしてくださった御業とは何でしょうか。ある人々は、キリストのすぐれた教えであると思っっています。確かに山上の説教は、すばらしい教えです。聖書についてはほとんど知らない人でも、山上の説教のある個所については知っています。しかし、山上の説教によって人は救われるでしょうか。わたしたちの罪は赦され

るでしようか。むしろ山上の説教の中に示されている高い標準を見る時、わたしたちはいかにそれから遠い所にいるかということを知って、絶望するのではないでしようか。

それでは、キリストの地上生活におけるすぐれた模範でしようか。確かにキリストの生涯には驚異の目を見はらせるものがあります。悩んでいる人や、苦しんでいる人や、病んでいる人の友となり、彼らの求めにすべて答えておられます。普通の人なら、自分のほうがノイローゼになってしまいうようなところなのに、全く疲れることを知らぬ超人です。しかも、最後に殺される時にも、ご自分を殺す人々を呪わず、かえってその人々の赦しを、十字架上の苦しみの中から求めて、祈っておられます。しかし、キリストの地上生活がどんなにすばらしいものであったとしても、悲しむべきことに、わたしたち自身それを模倣し、行なう力がありません。

ですから、聖書は決して、キリストの教えや模範によってわたしたちが救われるとは教えていません。それではどう教えているのでしようか。この個所を見てみますと、こう書いてあります。「それだから、あなたがたもキリストのからだを通して、律法に死んだのである。それは、あなたがたが他の人、すなわち死人の中からよみがえられた方のもとなり、こうして、わたしたちが神のために実を結ぶようになるためなのである。」ここで「キリストのからだを通して、律法に死んだ」と言っていることが聖書の教えなのです。これは、どういふことなのでしようか。これは、キリストが受肉し、人間となられ、あのゴルゴタの丘の上で、十字架にかかって

死なれた御業を指しています。キリストが十字架上で死なれた時、そこで何が起こったのでしょうか。それは、罪の贖い¹です。

聖い神の御子がなぜ十字架上で死ななければならなかったのでしょうか。そのことについては、すでに三章二四節に示るされています。「彼らは神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いによって、賜物として義とされるのである。」それは、わたしたちを罪から贖ってくださるためでした。

パウロは、ガラテヤの諸教会への手紙でこうしているところがあります。「しかし、みこころの時が来て、神は御子を遣わし、女より生まれさせ、律法の下に生まれさせられた。それは、律法の下にある者たちを贖い出すためであり、わたしたちが子たる身分を受けようになるためである。」¹これこそ、「キリストのからだを通して、律法に死んだ」ということにほかなりません。また、これは、この少しあとの個所で、次のように述べていることと同じです。「わたしたちが肉によって無力になったために、律法ができなくなっていたことを、神はしてくださった。御子を罪ある肉と同じような姿でお遣わしになり、その肉において罪を断罪されたのである。」²

キリストは、実に十字架上の死による贖いの御業を成し遂げることによって、わたしたちを罪の呪いから救い出し、クリスチャンとしてくださいました。そのことは、ペテロがその手紙の中で、次のように言っていることにほかなりません。「そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負わ

れました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。」

しかし、キリストがわたしたちのためにしてくださったことは、十字架上の死だけではありません。キリストは永遠の贖いのために、十字架上で死なれただけでなく、死人の中からよみがえられました。ここでも「死人の中からよみがえられた方のものとなり」と言われています。キリストはわたしたちを罪から救うために天からこの世に来てくださいましたが、死んでから、天に帰り、今生きておられます。そして、わたしたちのために天において、とりなしをしていてくださいます。ただとりなしをしてくださるだけではありません。今わたしたちはこのお方と結び合わされ、このお方のものとされたのです。ですから、このお方が死からよみがえられたように、わたしたちも最後の敵である死に打ち勝って生きることができなのです。最後の敵は、わたしたちが救われる前に、すでに主によって打ち負かされていました。

わたしたちクリスチャンは、このキリストがしてくださったことの上にその生活を成り立たせている者たちです。キリストの死と復活です。キリストが死なれた事によって、わたしたちは、律法の下にある生活から救い出され、解放されました。そして、キリストが死人の中からよみがえられたことによって、わたしたちの救いの保証が与えられ、決して滅びることがなく、この救いは最終的に完成することが確かなものとされました。

ですから、わたしたちクリスチャンは、キリストをすぐれた教師として仰ぐよりも先に、また、りっぱな模範を示してくださった偉大なお方として仰ぐよりも先に、罪からの救い主として信じ、受け入れなければなりません。そのあとで、キリストのすぐれた教えを学び、キリストの偉大なご人格の歩まれた足跡に倣う者とならなければなりません。そうする時、私たちは神のために、豊かに実を結ぶクリスチャンとしての歩みを全うすることができます。

- 注(1)ガラテヤの諸教会への手紙四章四、五節。
(2)ローマ教会への手紙八章三節。
(3)ペテロの第一の手紙二章二四節 新改訳。
(4)同書二章二二節 新改訳。



尾山令仁・ローマ教会への手紙講解(ロイドジョンズ・ロマ書講解要約)より